

付録1 武蔵野短期大学の6つの方針

1) アドミッション・ポリシー

本学では入学試験形態によりアドミッションポリシーをそれぞれ設けています。

・AO普通高等学校入学試験

従来の学力試験だけでは、はかりきれないコミュニケーションの力や積極的に物事を理解しようとする意欲のある者。子どもの視点にたつて子どもの気持ちを理解・共感できる人材を養成するために、教員との面接を通して行われる試験で表明できる者。同時に受験生が目的意識を改めて問い直すことにより、入学後により豊かな人間性をもった幼児教育者・保育者を目指すことができる者。音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

・AO専門高等学校入学試験

従来の学力試験だけでは、はかりきれないコミュニケーションの力や積極的に物事を理解しようとする意欲のある者。子どもの視点にたつて子どもの気持ちを理解・共感できる人材を養成するために、教員との面接を通して行われる試験で表明できる者。面接を通じて受験生が目的意識を改めて問い直し、受験生が専門高校で学んだ経験を基盤にすることにより、豊かな人間性をもち、専門高校で学んだ経験を生かした個性ある幼児教育者・保育者を目指すことができる者。音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

・AO社会人入学試験

社会人として培った経験をもとに、子どもの視点にたつて子どもの気持ちを理解・共感できる者。面接を通して受験生自身の経験や幼児教育者・保育者への明確な目的意識や積極的に物事を理解しようとする意欲の表明できる者。音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

・AO帰国子女入学試験

異なる文化や言語圏の中で生活した経験を生かし、コミュニケーションの中で子どもの気持ちを理解・共感できる者。日本語力（面接において、面接官とのコミュニケーション）、作文力（面接用紙においての志望動機等）を通しての思考力、目的意識を確認し、幼児教育者・保育者にふさわしい個性や積極的に物事を理解しようとする意欲の表明ができる者。音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

・指定校推薦（専門高校を含む）・一般推薦（専門高校を含む）入学試験

高等学校において一定以上の学力を有し、本学の教育方針を理解し、幼児教育者・保育者になるという明確な目標に意欲的に取り組むことのできる者。高等学校での一定以上の学力を基礎とした上で、課外活動等の実績を有し、面接において目的意識を確認し幼児教育者・保育者にふさわしい個性などを表明できる者。音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

・一般選抜試験

高等学校までに習得した基礎学力を背景とし、より強い目的意識と子どもの気持ちを理解しようとする感性を有した者。知識や思考力を判定する学力試験と併せて、面接において目的意識を確認し、幼児教育者・保育者にふさわしい個性などを有した者。音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

・特別試験（内部進学者）

同一法人内の高等学校を対象とした試験で、自分自身の個性・感性を見つめ、表現できる者、「自己認識」の意識の高い者、社会情勢に対し興味・関心があり、自己と対比化出来る者、自分以外の他者に対して、高い意識を持ち、幼児教育者・保育者にふさわしい個性などを表明でき、音楽・美術、体育のいずれかを積極的に学んだ者。

2) カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーとは簡単に言えば、**本学の建学の精神、教育理念、養成する人材像を実現するための基本的な考え方を具体化したもの**。以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

- (1) 教育・福祉における基本的な知識を体系的に理解するとともに、人文・社会・自然と自己を関連付け、情報リテラシー・国際対話の能力を身に付けるため、基礎科目（教養科目）を配置し、幼稚園教諭・保育士としての深い愛情と使命感を達成するために、教科専門科目、教職専門科目、福祉専門科目を配置し、国際化への対応として国際理解専門科目を配置する。
- (2) 知的学習と実践的学習調和、統合の上、自ら学習し体得した幼稚園教諭、保育士を養成するため、教科専門科目、教職専門科目、福祉専門科目を配置し、海外の教育・保育事情を理解するために国際理解専門科目を配置する。
- (3) 知識だけでなく、教育・保育に必要な基礎表現技能「伴奏法Ⅰ」「声楽」「図画工作Ⅰ」「体育」は必修とし、実習などの科目を配置する。実習科目においては、十分な成果が発揮できるようきめ細やかな事前指導を行う。
- (4) 倫理観、勤労観、職業観を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、よき教育者・保育者として、また社会人・職業人として自立していくことができるようにするため、キャリア教育科目として教職概論を位置づけ、1年次前期に配置する。
- (5) これまでに身に付けた幼児教育・保育に関する知識・技能等や深い問題を探求する能力を統合し、「教職・保育実践演習（幼稚園）」を通して、学科の方針の到達度を確認する。

3) ディプロマ・ポリシー

本学では以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定され、短期大学士（幼児教育学）の学位が授与される。

- (1) 知識・理解
一般教養を含め、教育・福祉における基本的な知識を体系的に理解している者。
- (2) 汎用的技能
教育・福祉に関する専門的な講義、演習、実習を通して得た情報や知識を分析し、様々な表現技能やコミュニケーション・スキルに基づき、問題を解決に導く能力を身に付けている者。
- (3) 態度・志向性
建学の精神「他者理解」に基づき、倫理観に基づき他者と協調・協働して行動することができ、使命感を以て社会に貢献することができる資質・能力を身に付けている者。
- (4) 統合的な学習経験と創造的思考力
2年間の学びを通して、幼児教育・保育に関する知識・技能等により、深い問題を探求する能力を身に付けている者。

4) 教養教育の方針

本学では建学の精神「他者理解」のもと、学則第1条第1項で「教育に関して実践的能力と深い愛情と使命感をもち信念をもって教育を行える幼稚園教諭を養成する」を定め、**教育方針として「知的学習と実践的学習の調和、統合の上に自らの学習し体得したものを幼児教育者・保育者として効果的に発揮できるように実践的・実際的教育の重視」**を掲げている。

本学として幼児教育学科の特性を生かして、以下のように「教養教育」の方針を定めるものとする。

- (1) 豊かな感性を通して社会と個の関係を理解し、人間関係の構築と重要性を理解する者。
- (2) 国際社会、デジタル社会での必要なコミュニケーション能力を身に付ける者。
- (3) 「人文」「社会」「自然」の分野のバランスの取れた一般教養を身に付ける者。
- (4) 幼児教育者・保育者として表現能力を養い、表現技能を習得する者。

5) 職業教育の方針

本法人設立時の「報恩感謝の精神」をもとに、学院全体が「他者を理解した上で報恩感謝の精神が生じてくる」との考え方にに基づき、建学の精神として「他者理解」を掲げている。異なる他者を理解する精神を尊重し、社会をリードする先進的職業人として自覚のある人材を養成することと定めている。

学則には建学の精神に基づき、「幼児教育に関して実践的能力と深い愛情と使命感をもち信念をもって教育を行える幼稚園教諭の養成」と「社会的使命感及び職業的自覚をもち、福祉に対して多様化しつつある社会的要請に精確に対応できる感覚と能力を備えた質の高い保育士の養成」を目的とすることを定めている。

この目的を達成するため「教員として、保育士としての深い愛情と使命感をもち、信念をもって教育にあたる幼稚園教諭、保育士を養成する」「知的学習と実践的学習の調和、統合の上に、自ら学習し体得したものを幼稚園教諭、保育士として効果的に発揮できるように、実践的、実践的教育を重視する」を教育方針とし、教育や福祉の現場で活躍できる人材の養成を目指している。

本学として幼児教育学科の特性を生かし、以下のように方針を定めるものとする。

- (1) 豊かな感性を通して社会と個の関係を理解し、人間関係の構築と重要性を理解することで、教育や福祉の現場で活用できる能力を有する者。
- (2) 幼児教育者・保育者として実践的能力と深い愛情と使命感をもち、子育て支援等に貢献できる資質・能力を有する者。
- (3) 教育実習・保育実習を通して職業としての幼稚園教諭・保育士の在り方を学び、幼児教育・保育者としての自覚を持つ者。
- (4) 幼児教育者・保育者として保育内容研究の向上に心がける者。
- (5) 倫理観を持って国際社会、デジタル社会での必要なコミュニケーションを行える者。

6) 学修成果到達目標の方針（アセスメント・ポリシー）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教養：豊かな感性を通して、社会と個の関係を理解する。
		教科：基礎技能（音・図）の基礎を身に付ける。
		教職：教職とは何か、教育とは何かといった教員としての社会的使命について理解する。
		福祉：保育とは何か、保育・福祉とは何かといった保育士としての社会的使命について理解する。
		国際：基礎科目（教養科目：英会話Ⅰを含め）や専門科目の学修から国際感覚を養う。
	職業：人間関係の構築と教育と福祉の現場での活用を目指す。	
	後期	教養：豊かな感性を通して、社会と個の関係を理解する。
		教科：基礎技能（音）の基礎を身に付ける。
		教職：前期・後期を通して保育内容の5領域の基礎を理解すると共に、教育実習Ⅰの経験を通して幼稚園の在り方や幼児を理解する。
		福祉：前期・後期を通して保育内容の5領域の基礎を理解すると共に、保育実習Ⅰ（保育所）の経験を通して保育所の在り方や入所者を理解する。
国際：国際幼児教育実習の事前学習を通して視野を広げる。		
職業：幼児教育者・保育者としての実践的能力の開発を目指す。		
2年次	前期	教養：豊かな感性を通して、人間関係の構築の重要性を理解する。
		教科：音・図・体の基礎から応用の力を身に付ける。
		教職：教育課程・保育内容全般を理解すると共に、教育実習Ⅱの経験を通して幼稚園の在り方や幼児への理解を深める。
		福祉：保育課程・保育内容全般を理解すると共に、保育実習Ⅰ（施設）の経験を通して児童福祉施設の在り方や入所者への理解を深める。
		国際：国際幼児教育実習を通して海外の保育状況を知り、理解を深める。
	職業：教育実習・保育実習を通して職業としての幼稚園教諭・保育士の在り方を学び、理解する。	
	後期	教養：豊かな感性を通して、人間関係の構築の重要性を理解する。
		教科：音図体の基礎から応用の力をさらに身に付ける。
		教職：教育実習Ⅱでの課題や保育での様々の方法等、幼児教育への理解をさらに深め、子育て支援をする教育者のあるべき姿等を理解する。
		福祉：保育実習Ⅱ・Ⅲでの課題や保育での様々の方法等、保育や児童福祉への理解をさらに深め、子育て支援をする保育者・児童福祉に従事する者のあるべき姿等を理解する。
国際：科目「国際理解」を通して海外の幼児教育・保育状況に関する知見を広げる。		
職業：教育者・保育者としての資質等について教職・保育実践演習(幼稚園)を通して確認していく。		

* 教養とは教養科目（基礎科目）、教科とは教科専門科目、教職とは教職専門科目、福祉とは福祉専門科目、国際とは国際理解専門科目。